

南砺市コロナ危機打開・未来希望プロジェクト なんと！ビジネスプランコンテスト 事業PRシート

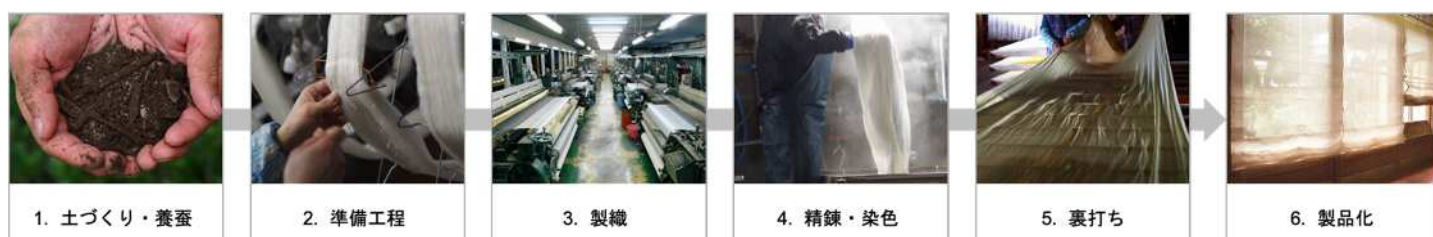
事業者名	株式会社松井機業場
------	-----------

ビジネスプランの名称	南砺から世界へ 城端絹で睡眠市場の新規開拓
------------	-----------------------

■ビジネスプランの概要

<会社概要と課題背景>

当社は明治10年の創業以来一貫して、国の地域資源である富山県西部の織物を製織し、和装や襦などの製品を販売してきた。しかしながら、新型コロナウイルスの影響を受け、既存の襦製品においてはリフォームなどのキャンセルが相次ぎ、注文が激減。売上高も昨年比50%にまで落ち込んでいる。城端絹を製織していた会社も昨年3月に廃業し、遂に城端絹を織る会社は当社のみとなってしまった。これらの事が重なり、城端の絹織物は今、存亡の危機に直面している。時代の流れに合わせ城端絹の可能性を広げ450年続く城端絹の織物産業を振興していくのが喫緊の課題となっている。



○世界で唯一の一貫生産体制

<ビジネスプラン>

急拡大する睡眠市場において、富裕層向けに、科学的根拠に基づいた城端絹によるオーダーメイド型、睡眠環境(ルームウェア・照明・寝具・壁紙・シェードなど)のコーディネートサービスを行う。完全予約制の店舗版とオンライン版の2つを用意し、お客様の悩みをヒアリング。工場見学後、睡眠環境の改善に最適な絹製品をオーダーメイドで生産。科学的根拠に基づいた機能性と、天然繊維の持つ癒し効果から上質な睡眠を得たい人たちに細胞レベルの喜びを提供する。



○サービス内容事例

■南砺市への経済効果や地域への影響など

1. 城端の文化・観光の拠点

450年続く城端絹の歴史と技術を唯一未来につなげる企業として、「絹の町城端」の文化・観光の拠点となるよう貢献する。

2. 南砺市産の養蚕の復活(五箇山・福光・井波)

絹織物の原料である玉糸は、昔は五箇山の生糸をタテ糸に、福光町の生糸をヨコ糸に使用していたが、現在は、ブラジルから輸入している。世界遺産である五箇山の合掌集落も、元は養蚕のために設計された建物である。世界的な財産がありながら現在は展示のみに止まってしまっている。菅沼合掌集落で養蚕を復興させようとしている荒井氏・五十田氏、井波で養蚕・糸作りのレクチャーをされている高倉氏とも協力し、南砺市の養蚕を復興させ、城端の絹織物を振興する。生涯学習として子どもたちにも南砺市の養蚕や織物などの歴史的背景も伝えていく。

3. 市内の他業種との商品開発・販路の確立

南砺市の他業種とコラボレーションし、南砺市の地場産業を盛り上げる一翼を担う。

〈これまでの取り組み〉

- ・ 田村萬盛堂へ蚕紗(蚕のフン)の提供を行い、クッキーとコーヒーが誕生。全国放送でも取り上げられている。
- ・ 昨年の母の日には花農家の千華園とギフトセットをオンラインストアで販売し、多くのご注文をいただいた。
- ・ 昨年末、利賀村にオープンしたオーベルジュレヴォではメニューやマスクケースにしけ絹紙が採用されている。